

考える機会の

多い1年



○：「考える機会が多かった」と1年を振り返るのは、群馬県建



設業協会の青柳剛会長。感染症の流行が収

束しない中、賃上げ企業を優遇する総合評価方式や、資機材の価格高騰などへの対応に迫られた。「地域建設会社は一步間違えれば存続が危ぶまれた」と受け止めている。

○：今年協会の主催の技術研修に技術者を送り出す会員が増え

た。学び直しの間となるリカレント研修の参加者も多い。研修・学び・評価という「『やりがい』創出のデルタモデル」が回り、厳しいながらも「地域の人材を地域で育てる」ための歯車がかみ合ってきたと実感したという。

○：時間外労働の罰則付き上限規制の適用を控え、「来年は働き方改革の重要な期間になる」。就業規則や労使協定まで踏み込んだ対応が必要になると予想。「厳しいのは変化」と捉え、持続可能な地域建設業への環境整備にまい進する。